

ドローンの操作は自動化が進んだとはいえ、誰でも扱えるものではありません。



力が電動モーターで構造が簡単ですから余分な動力が不要です。その分、余分な風で薬剤をまき散らすことも少なくなります。

8月6日早朝、ドローンが薬剤の散布圃場を舞い始めました。数年前までは、小型の「ヘリコプター型」が農薬散布の主流でした。模倣用とはいえ、そのエンジンは、かなりの騒音がしていましたが、重量を支えるためにはそれ相当の馬力が必要です。ドローンの場合は、動



夕日の両側に虹の光が見える「幻日」

夕日にかかる「虹」を見ましたか

8月26日の朝には、朝日の幻日が見られましたが、撮影できませんでした。

8月1日夕刻の西の空。夕日が山の端に隠れようとするころのことです。不思議な形の雲とともに光の柱。夕日の両側にあるのは「虹」の光です。虹は太陽の光が雲の中の水の結晶を通過するときに波長によって屈折率が異なるので、別々の光に変わってしまふことをさします。このように朝日や夕日にできる虹の状態のことを「幻日」というのだそうです。この日の後、いろいろなメディアで「幻日」の写真の投稿が相次いでいました。

ヘリコプターによる農薬散布が始まった数十年前は、この地域全体に薬剤を散布していました。通学の際には走って行ったのを覚えています。35℃を超えるのが当たり前のようない日が続きました。日中の作業は、熱

猛暑を避けて

中症の危険が高まりますので、よほどのことがない限り行いません。水路管理のための除草作業も、早朝の気温が上がらないうちに行います。とはいえ、全身汗びっしょりの重労働、みなさまご苦労様です。



除草管理、農家の最大の仕事

長い梅雨の後は猛暑「特別な夏」

ネギで20億円の売り上げをつかむ男

日本経済新聞の8月23日に掲載されていた記事に驚かされました。カットネギを中心に、全国販売を手掛ける農業法人「こと京都株式会社」の山田敏之代表のお話です。

生家は野菜農家ですが、兄が家業を継いだので、本人はアパレル会社に勤務します。実家の繁忙さに自分も農業で起業すると決心。初年度の売り上げ目標を1億円と宣言、殆どの人から笑いの扱いされてしまったとのこと。初年度は400万円にとどまったと

のことですが、そこから挑戦が始まります。市場で高値が付くのはどんなネギか、調べまわります。すると、農家から人の品物を見るなど激しく叱られたとのこと。農産物にはそういう比較調査の習慣がなかったのではないかと語っています。

ところがいい形のネギは、6割程度でそれ以上にはなりません。そこで、カットしてしまふことを思いつきます。それなら見た目は関係なくなりま

心とむ「花のある風景」



季節ごとに様々な花がみられる(集積所そば)



整然と植え込まれた、色とりどりの花(6班)

入賞花壇、6班有志の花壇や、大会には参加しないものの、周りの人が好きなように花を植えて楽しむところもあります。美しい花は、地域の雰囲気をはらりと変えますね。景観形成の重要なポイントとして注目されています。

この地域にはいくつかのかだんがあります。地域交流センターの主催の「花いっぱい運動」の常連

「根性ひまわり」ついにテレビにも紹介

先月号で紹介した「根性ひまわり」連日の猛暑の中、どんどん育っていきました。数えてみると30個以上の花が咲いています。けっして良い環境ではないはずですが、しっかり育ってくれました。

地元の人はこちらん、通りがかりの人も足を止めて、写真を撮る人も少なくなかったようです。先日は、テレビ山口の「週末ちぐまや家族」の写真投稿コーナーにも取り上げられました。ひまわりだと見つけたときは、ガードレールに届くかどうかという状況でしたから、よく育ったものです。もうしばらく頑張ってもらいます。



強い日差しに映える「ひまわり」



新聞見開きに特大のカラー写真入りで掲載

みます。どんどん拡大して、組織も農業法人となりました。そしてほかの人のネギも扱うようになり、売り上げは1億円を超えました。

しかし、その後には東日本大震災で大量の注文がキャンセル。資金的に窮地に追い込まれますが、政府系金融機関の助けを借りて、何とかしのぎます。

天候にも負けないように、生産者を広く全国に求め、低温倉庫で貯蔵も可能な状況を作ります。

法人化と同時に現場は任せて、代表としてスーツを着た農家は、ついに売り上げ20億円を達成。しかし、夢はまだまだ止まっています。